

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主 確定日	3月31日、9月30日 その他必要あるときは あらかじめ公告して定めた日
定時株主総会	毎年6月に開催
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel. 0120-232-711(フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所 札幌証券取引所
公告方法	電子公告により行う (http://www.hokkanholdings.co.jp/)に 掲載いたします。ただし、事故その他やむを得 ない事由により電子公告をすることができな いときは、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続き
につきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会
社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証
券会社等にお問い合わせてください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託
銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては
は、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記
特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせてく
ださい。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたしま
す。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支
払いいたします。



ホッカホールディングス株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号
TEL 03-3213-5111(代表)

URL: <http://www.hokkanholdings.co.jp/>

株主優待のお知らせ

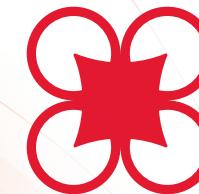
毎年3月31日(基準日)現在の株主名簿に記載された株主様
に対し、当社グループの容器に入った缶詰を年1回、以下のとおり
贈呈いたします。

贈呈基準

- 1,000株以上 5,000株未満
—— 2,000円相当の缶詰詰合せ
- 5,000株以上 10,000株未満
—— 3,000円相当の缶詰詰合せ
- 10,000株以上
—— 5,000円相当の缶詰詰合せ



この冊子は環境への配慮のため、FSC森林認証紙と
ベジタブルオイルインキを使用しています。



HOKKAN HOLDINGS

ホッカホールディングス株式会社

(証券コード:5902)

株主の皆様へ

HOKKAN REPORT Vol.20

第91期上半期 株主通信

2015年4月1日～2015年9月30日

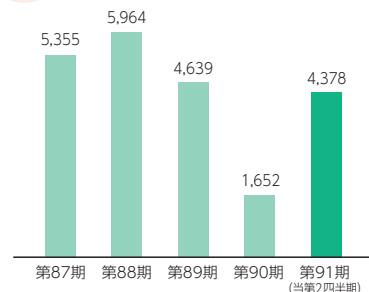
売上高

単位：百万円



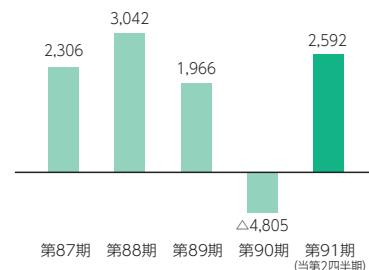
経常利益

単位：百万円



親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益*

単位：百万円



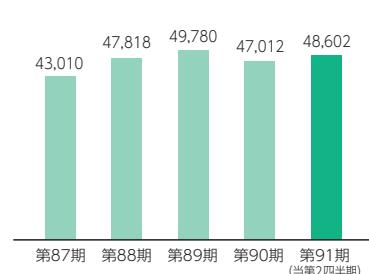
総資産

単位：百万円



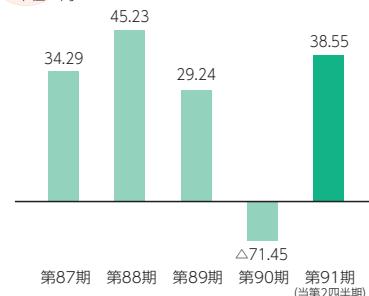
純資産

単位：百万円



1株当たり四半期(当期)純利益

単位：円



項目	第87期	第88期	第89期	第90期	第91期(当第2四半期)
売上高 (単位:百万円)	173,123	166,981	169,714	152,931	64,049
経常利益 (単位:百万円)	5,355	5,964	4,639	1,652	4,378
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益*	2,306	3,042	1,966	△4,805	2,592
総資産 (単位:百万円)	135,176	134,862	138,175	134,820	132,445
純資産 (単位:百万円)	43,010	47,818	49,780	47,012	48,602
1株当たり四半期(当期)純利益 (単位:円)	34.29	45.23	29.24	△71.45	38.55

※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当連結会計年度より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としており、前連結会計年度までの当期純利益についても科目名を統一しております。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第91期上半期(2015年4月1日から2015年9月30日まで)の営業の概況ならびに計算書類について、ご報告申し上げます。

○ 当上半期の業績および営業概況

当上半期におけるわが国経済は、新興国経済の減速の影響から輸出は伸び悩みましたものの、国内については企業の設備投資が堅調に推移しており、また、個人消費も底堅く推移したことから、景気は総じて緩やかに回復を続ける状況となりました。

このような情勢のなかで、当社グループは業績の向上を目指し、各分野で努力してまいりました結果、当上半期の連結総売上高は640億49百万円(前年同期比22.9%減)となり、営業利益は38億4百万円(前年同期比149.5%増)、経常利益は43億78百万円(前年同期比104.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は25億92百万円(前年同期比108.8%増)を計上いたしました。

当上半期における清涼飲料業界の状況につきましては、ゴールデンウィーク以降比較的好天に恵まれたことと、夏場前半の猛暑によりミネラルウォーター等を中心に市場全体が押し上げられたため、清涼飲料業界全体では前年を上回る結果となりました。

カテゴリー別で見ますと、ミネラルウォーターにつきましては、各地での猛暑による気温上昇が寄与し、前年を大きく上回る結果となりました。また、その他の清涼飲料(炭酸飲料・スポーツドリンク・茶系飲料等)につきましては、8月中



代表取締役社長

工藤 常史

旬以降の気温の落ち込みや台風による豪雨の影響もありましたため、前年並みに推移する結果となりました。

なお、缶コーヒーにつきましては、カップ式カウンターコーヒーが広く普及した影響等はありませんでしたが、ボトル缶が好調でありましたため、前年を上回る結果となりました。

食品缶詰業界につきましては、農産缶詰では猛暑による気温の上昇等により一部地域では農産原料の生育に影響はありませんでしたが、加工用原料は比較的安定して確保できましたため、前年並みに推移する結果となりました。しかしながら、水産缶詰が海水温上昇の影響等により水産原料の水揚げが減少する等前年を下回りましたため、食品缶詰全体では前年を下回る結果となりました。



事業別の概況

容器事業

(メタル缶)

①飲料缶・食品缶

飲料用スチール空缶につきましては、主力の缶コーヒーが、カップ式カウンターコーヒーの市場への浸透、また、一部お客様のアルミ缶化および当社グループの重要な取引先様の飲料事業からの撤退の影響等により、飲料用スチール空缶全体では前年を下回る結果となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、水産缶詰が海水温の上昇により水産原料の水揚げが減少し、また、主力のサンマ製品につきましてもお客様の生産調整により減少いたしました。しかしながら、農産缶詰において、主力のスイートコーン缶が前年を大きく上回りましたため、食品缶詰用空缶全体では前年を上回る結果となりました。

②その他

エアゾール用空缶につきましては、殺虫剤や消臭剤は前年を下回りましたものの、工業製品や塗料製品、カセットコンロ用ボンベ缶の受注が増加したため、前年を上回る結果となりました。

美術缶につきましては、和洋菓子関連商品の受注が増加したため、美術缶全体では前年を上回る結果となりました。

(プラスチック容器)

①飲料用ペットボトル

飲料用ペットボトルにつきましては、お客様による内製化拡大の影響を受け、前年を下回りましたものの、無菌充填用ブリフォーム(ボトル成形前の中間製品)につきましては夏場の猛暑等により前年を大きく上回る結果となりました。

②食品用ペットボトル

食品用ペットボトルにつきましては、昨年の消費増税の反

動により醤油用ボトルが増加し、また、中元商材が好調に推移したことから食品用ペットボトル全体では前年を上回る結果となりました。

③その他

一般成形品につきましては、化粧品用の受注が大きく伸びたほか、農薬・園芸品用に関しましても順調に推移し、また、バッグインボックスにつきましても前年並みとなりましたことから、一般成形品全体では前年を上回る結果となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は218億72百万円(前年同期比1.3%減)となり、営業利益は9億95百万円(前年同期比1,139.2%増)となりました。

充填事業

(缶製品)

缶製品につきましては、リシール缶(ボトル缶)におきまして前年を上回る販売数量となりましたが、通常缶におきましては、スクラップアンドビルドの一環として炭酸ラインを撤去したこと等により前年を大きく下回る販売数量となりました。さらに、一部お客様との取引形態を変更(お客様からの原材料の無償支給)した影響により売上高が減少となり、缶製品全体の売上高は前年を下回る結果となりました。

(ペットボトル製品)

ペットボトル製品につきましては、アセプティック(無菌充填)を含む大型ペットボトル製品は、夏場の好天に支えられ順調に推移し、また、昨年より稼働しておりますミネラルウォーター用の新ラインについても好調でありましたため、

前年を大きく上回る販売数量となりました。また、アセプティック(無菌充填)を含む小型ペットボトル製品につきましても、猛暑の影響や大型・小型兼用ラインの増設等により増産となりました。しかしながら、一部お客様との取引形態を変更(お客様からの原材料の無償支給)した影響により売上高が減少となり、ペットボトル製品全体の売上高は前年を下回る結果となりました。

以上の結果、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております乳製品受託製造販売を営むくじらい乳業株式会社を加えた充填事業全体の売上高は386億57百万円(前年同期比33.8%減)となり、営業利益は34億94百万円(前年同期比90.3%増)となりました。

機械製作事業

機械製作事業につきましては、金型や自動車部品生産機械が順調に推移いたしましたため、機械製作事業全体の売上高は、7億81百万円(前年同期比54.4%増)となりましたものの、グループ内における受注等が減少しましたため、営業損失は21百万円(前年同期は営業利益43百万円)となりました。

その他

インドネシアにおいて、容器(ペットボトル)製造から内容物の充填までを一貫しておこなうPT.HOKKAN INDONESIA(ホッカン・インドネシア社)では、同国の経済がルピア安による物価上昇から消費者マインドが冷え込むなど鈍化しているなか、同国の清涼飲料業界につきましてもこれらの影響を受け、厳しい環境下にあります。

そのようななかでPT.HOKKAN INDONESIA(ホッカン・インドネシア社)は、同国の業界動向と同様に厳しい状況にありますが、本年増設した第2製造ラインの稼働により前年を上回る販売となりました。

また、ベトナムにおいて清涼飲料の受託充填事業を営んでおりますNIHON CANPACK(VIETNAM)CO.,LTD.(日本キャンパック・ベトナム社)は、国内および輸出向け販売が増加したため、前年を上回る結果となりました。

以上の結果、工場内の運搬作業等を行っております株式会社ワーク・サービスおよび当第2四半期連結会計期間から新たに連結の範囲に含めました化粧品等製造販売を営む株式会社コスメサイエンスを加えたその他全体の売上高は27億38百万円(前年同期比35.7%増)となりましたものの、PT.HOKKAN INDONESIA(ホッカン・インドネシア社)における販売環境の悪化等により営業損失は93百万円(前年同期は営業利益1億2百万円)となりました。

下期へ向けて

下期のわが国経済の見通しにつきましては、新興国の景気が下振れし、国内の景気を押し下げる懸念はあるものの、景気は依然緩やかに回復を続けるものと思われまます。

このような状況のなかで、当社グループの業績につきましては、上期は順調に推移いたしました、下期につきましても引き続き既存事業で経営基盤をしっかりと支え、そして新規事業・海外事業への取り組みを成長のエンジンと位置づけ、邁進していく所存であります。

また、今年度は中期5カ年経営計画「ACTIVE-5」の最終年度にあたりまます。

当社グループを取り巻く環境が、この5年間において、特に容器事業におけるスチール空缶の分野において大きく変化したことに加え、充填事業におけるお客様との取引条件の変更もあり、グループとして様々な対策を講じてまいりましたものの、残念ながら中期経営計画の最終数値計画の達成が見込めない状況にあります。来年度以降、現在策定中の次期中期経営計画の実行に向けて十分な体制を構築してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

なお、通期の連結業績は売上高1,220億円、経常利益43億円、親会社株主に帰属する当期純利益23億円を見込んでおります。

以上ご報告のとおりでございますので、中間配当金につきましては、1株につき3円75銭とし、2015年12月7日にお支払いすることいたしました。

ホッカンホールディングスは グループ事業会社全体の力を統合し、 さらに高いレベルの「ものづくり力」を追求します。

当社は持株会社として、各事業を強化するとともに、グループ企業とのアライアンスの発展を図ってまいります。そして、“最大より最高”をモットーに、品質と価格の両面を併せ持つ「ものづくり力」を高めてまいります。



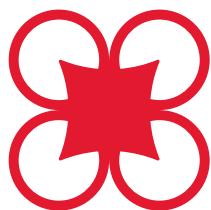
容器製造／販売

食品用、飲料用などの空缶、ペットボトルなどのプラスチック容器の開発、生産、販売など幅広くおこなっています。

●「ホッカンエパーグリーン」は、同社のルーツである北海道の大地を象徴する緑、永遠の若さ、生命力を表しています。

北海製罐株式会社

昭和製器株式会社
日東製器株式会社
東都成型株式会社
株式会社ワーク・サービス
PT.ホッカン・インドネシア
ホッカン・タイ
株式会社コスメサイエンス



HOKKAN HOLDINGS



機械製作

北海製罐株式会社や株式会社日本キャンパックで使用する超精密密度の金型から製造機械、総合一般の製造ラインまで提供する機械メーカーです。

●「オーエスプレシジョンオレンジ」は、超精密密度を追求する同社の各種金型と各種製造機械の安全性を表しています。

オーエスマシナリー株式会社

KE・OSマシナリー株式会社



充填

大手ブランドの飲料を空缶やペットボトルに充填する受託充填企業です。調合から物流までを請け負う総合力を持っています。

●「キャンバックアクアブルー」は、良質の水に恵まれた工場を持つ同社のメリットから、品質と潤いを表しています。

株式会社日本キャンパック

株式会社西日本キャンパック
日本キャンパック・マレーシア
日本キャンパック・ベトナム
くじらい乳業株式会社

日本キム株式会社を 東都成型株式会社の子会社に

当社グループの東都成型株式会社は、2015年1月30日に日本キム株式会社の株式を90%取得し、子会社化しました。

日本キム株式会社は、口栓(スパウト)付軟包材複合容器(スパウト付パウチ製品)製造で40年近い歴史を有しており、口栓に関する特許を多数保有しております。

同社をグループ会社化することで、当社グループにとって新たな容器分野であります軟包材複合容器製造への進出が可能となりました。



逆止弁付口栓(スパウト)など特徴ある製品を数多く開発。



日本キム株式会社の概況

会社名	日本キム株式会社
設立	1977年1月26日
所在地	埼玉県さいたま市
事業内容	口栓(スパウト)付き等軟包材複合容器の設計・製造・販売

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2015年9月30日現在	前期 2015年3月31日現在	科目	当第2四半期 2015年9月30日現在	前期 2015年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	42,341	41,963	流動負債	44,610	45,500
現金及び預金	1,345	930	支払手形及び買掛金	18,571	19,465
受取手形及び売掛金	24,455	24,748	短期借入金	16,744	14,084
電子記録債権	4,227	3,557	リース債務	653	495
たな卸資産	9,087	9,160	未払法人税等	1,156	132
繰延税金資産	657	616	賞与引当金	798	780
その他	2,587	2,969	その他	6,685	10,541
貸倒引当金	△19	△20	固定負債	39,232	42,308
固定資産	90,103	92,857	長期借入金	34,876	37,164
有形固定資産	63,628	64,732	リース債務	600	819
建物及び構築物	21,771	20,709	繰延税金負債	560	746
機械装置及び運搬具	19,042	17,468	退職給付に係る負債	2,822	2,808
土地	16,120	15,673	その他	371	769
リース資産	2,734	2,883	負債合計	83,843	87,808
建設仮勘定	3,480	7,641	純資産の部		
その他	479	354	株主資本	41,116	38,696
無形固定資産	1,371	1,536	資本金	11,086	11,086
投資その他の資産	25,103	26,588	資本剰余金	10,750	10,750
投資有価証券	20,866	21,309	利益剰余金	19,307	16,887
繰延税金資産	34	34	自己株式	△27	△27
退職給付に係る資産	1,303	1,379	その他の包括利益累計額	3,401	4,410
その他	3,169	4,064	その他有価証券評価差額金	3,851	4,429
貸倒引当金	△271	△199	繰延ヘッジ損益	△36	△6
資産合計	132,445	134,820	為替換算調整勘定	57	516
			退職給付に係る調整累計額	△471	△529
			非支配株主持分*	4,084	3,905
			純資産合計	48,602	47,012
			負債純資産合計	132,445	134,820

※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当連結会計年度より、「少数株主持分」は「非支配株主持分」に、「少数株主損益調整前四半期純利益」は「四半期純利

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	前第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで
売上高	64,049	83,051
売上原価	53,640	74,639
売上総利益	10,409	8,412
販売費及び一般管理費	6,604	6,886
営業利益	3,804	1,525
営業外収益	1,137	914
営業外費用	563	295
経常利益	4,378	2,143
特別損失	157	74
税金等調整前四半期純利益	4,220	2,069
法人税・住民税及び事業税	1,158	564
法人税等調整額	93	91
四半期純利益*	2,968	1,413
非支配株主に帰属する四半期純利益*	376	172
親会社株主に帰属する四半期純利益*	2,592	1,241

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	前第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,410	4,603
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,325	△8,324
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,254	2,958
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	△4
現金及び現金同等物の増減額	327	△766
現金及び現金同等物の期首残高	930	2,459
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	87	82
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,344	1,775

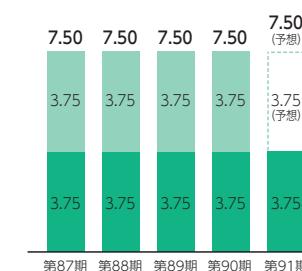
益」に、「少数株主損益」は「非支配株主に帰属する四半期純利益」に、「四半期純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

利益配分に関する
基本方針

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議により定めることができる旨を定款に定めております。剰余金の配当につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様への安定した配当をおこなうことを基本方針としております。

1株当たり配当金

単位:円 ■中間期 ■期末



○ 会社概要

商号 ホッカンホールディングス株式会社
HOKKAN HOLDINGS LIMITED
本社 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号
丸の内三井ビル TEL03-3213-5111
設立 1950(昭和25)年2月1日
(創立 1921(大正10)年10月23日)
資本金 110億8,652万4,995円
従業員数 31名
事業内容 (1)各種空罐、容器の製造販売
(2)清涼飲料水・酒類その他各種飲料の受託充填および販売
(3)乳製品・菓子類の受託製造販売
(4)レトルト食品の受託製造販売
(5)各種化粧品受託製造販売
(6)各種機械の製造販売
(7)機械器具設置工事業
(8)倉庫業
(9)土木・建築工事の設計、施工請負



○ 株式の状況

発行可能株式総数 240,000,000株
発行済株式の総数 67,346,935株
株主数 5,846名

大株主

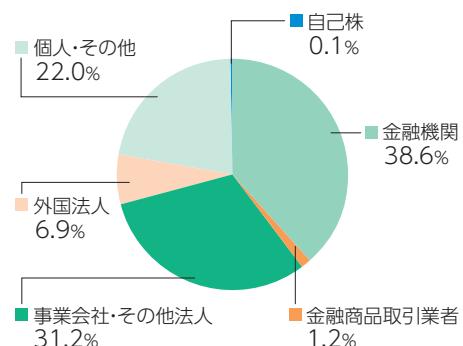
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社トーモク	5,926	8.81
日本生命保険相互会社	3,274	4.87
株式会社みずほ銀行	3,273	4.87
ホッカンホールディングスグループ取引先持株会	2,603	3.87
農林中央金庫	2,000	2.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,884	2.80
東京海上日動火災保険株式会社	1,805	2.68
株式会社北海道銀行	1,765	2.63
株式会社メタルワン	1,700	2.53
JFEスチール株式会社	1,565	2.33

(注)持株比率は自己株式(84,766株)を控除して計算しております。

○ 役員

取締役社長 (代表取締役) 工藤 常史
常務取締役 山崎 節昌
常務取締役 池田 孝資
取締役 久保田 裕一
取締役 藤本 良一
取締役 小池 明夫
取締役 武田 卓也
取締役(社外) 田中 弘
常勤監査役 竹田 由里
監査役 寺嶋 勉
監査役(社外) 新名 孝信
監査役(社外) 安藤 信彦

所有者別分布状況



当社のホームページでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、当社の事業活動や動向を紹介しております。また、**英文サイト**と**個人投資家向けサイト**を開設し、**IR情報メールの配信サービス**を実施しております。当社をよりご理解いただくためにも、是非アクセスしてください。

<http://www.hokkanholdings.co.jp/>

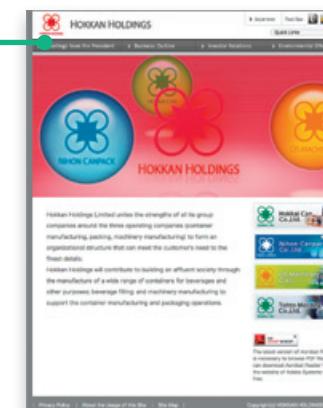
IR情報 / 電子公告



トップページ



英文サイト



個人投資家向けサイト



IR情報メールの配信サービスにご登録ください!

最新のニュースリリースやホームページの更新情報などをご登録の皆様へ電子メールにてお知らせいたします。